

2025 年度 QC サークル本部方針

2024 年 9 月 20 日

QC サークル本部

【QC サークル活動（小集団改善活動）スローガン】

QC サークル活動（小集団改善活動）により、
日本全体の“仕事（業務）の品質／質”のダントツ化を図ろう！

【QC サークル活動（小集団改善活動）基本方針】

1. QC サークルのリーダー・メンバーは、チームワークで仕事の達成感と自己成長を図る！（人間力）
2. リーダーは、より高い目標に挑戦するリーダーシップを発揮する！（仕事力）
3. 管理者・監督者は、QC サークル活動支援を職場マネジメントの主要事項として行う！（職場力）
4. 推進事務局は、全社一丸となったスピード感あふれる改善活動の活性化のために新しい施策を企画する！（組織力）
5. 経営者は、経営に資する全社 TQM 推進の一環としての QC サークル活動（小集団改善活動）の強化を図る！（経営力）
6. 地域の企業・組織との連携を図る！“仲間づくり”

【QC サークル本部 2025 年度重点取組事項】

1. 本部・支部・地区の連携の更なる強化、支部・地区の柔軟な組織づくり、行事等運営方法の弾力化・合理化ができるよう、「QC サークル本部・支部規定」「支部・地区活動運営のしおり」等を見直す。
→「運営改革プロジェクト」答申を踏まえ、より柔軟で合理的な運営の実現のための検討を行い、合意を得られたものから実施する。
2. 情報セキュリティ（機密性、完全性、可用性）を担保したうえで、DX の考え方、ICT ツールの活用により、本部・支部・地区の作業・事務工数を削減・効率化する。
→現状把握（何に工数を要しているのか、その他の問題・課題等）を行った上で、その解決に向けて、全体的な仕組みの変更、新たなシステムの構築、必要に応じて規定、基準の見直しを行う。
3. 支部・地区における行事（大会、研修会等）の運営等の負担を軽減するための支援を行う。
→一般対象研修会の日科技連への移管、幹事研修の共通部分を日科技連が提供する等により、支部・地区の負担軽減につなげる。
4. 本部（含む日科技連等）はじめ各支部・地区が保有している各種情報（含む方針・答申等）、ベストプラクティスを共有し、利活用できるようにする（情報交換システム【支部・地区運営自慢】等活用）。
→情報共有システムを見直し、ライブラリー化（検索機能付き）を検討し、可及的速やかに実施する。
5. 仲間を増やす活動に利活用できるよう、活動企業勧誘や組織拡大に役立つ企業情報を個人情報保護法並びに情報セキュリティに則って収集し管理する。
→情報収集・利活用のシステムを見直し、D/B 化を推進する。
6. 本部主催大会及び研修等（含む日科技連主催行事）を、計画的に、且つ、仲間を増やす観点で、効果的に開催する。
→全国大会（5 大会）、JHS グランドチャンピオン大会、全日本選抜大会、洋上大学を計画的に開催し、効果を高めていく。

7. 活動環境の変化（コト価値、就業構造変化、2024 年問題への対応など）に対応し、活動方法を柔軟に、多様化して、活動の入り口を広げて普及拡大につなげ、活動自体もやりやすくして活性化をめざす。
→大会等を含めて、入りやすく、活動しやすく、参加しやすい活動、行事等にするための工夫を行う。
8. 支部と連携して、事務・販売・サービス部門〔含む医療、福祉〕や小規模企業への普及拡大と活動の促進をめざして、入り口の入りやすさと活動基盤の構築につながる働きかけの検討を継続する。
→JHS-WG 答申、「運営改革プロジェクト」答申に即して、提言の具体化に注力する。

【支部・地区における基本的な取り組み例】

1. 支部・地区の運営

(1) 支部・地区業務の工夫

- 1) 支部・地区の役員・幹事等については、各支部・地区、会員企業・組織等の事情等に応じて、これまでも弾力的な取扱い等を行って、柔軟な役割分担や任期の設定等により負荷を軽減しながら必要な体制を維持している支部・地区がある。また、地域の経済や社会基盤を支える中堅企業や医療・福祉・教育分野等の企業に対し、エリア（ブロック）幹事会社制度を設けて参加・協力要請を行い、活動企業の裾野を広げている支部・地区がある。ついては、引き続き、各支部・地区の事情等に応じて多様な工夫等を行うとともに、必要に応じて本部と連携する（必要に応じて、本部・支部規定の見直し等が必要になることも想定）。
- 2) 支部長会社・地区長会社、幹事会社等の負担軽減のために、情報セキュリティ（機密性、完全性、可用性）を担保したうえで、DX の考え方、ICT 活用を前提に、必要に応じて本部と連携、協議して、業務の効率化、組織運営や行事等運営の合理化を図る（本部・支部規定、情報交換システム等の運用基準の見直しが必要になる場合も想定）。

(2) 行事運営の工夫

- 1) 地域の生活を支える医療・福祉団体、流通業界などと連携し、エッセンシャルワーカーをはじめ、業種・業態・組織規模などによって長時間に亘り職場を離れにくい方々の、大会での発表・聴講、研修等への誘引を図るためのオンラインシステム活用などを進める。
- 2) 大会等において、発表者、聴講者の参加形態の多様化、弾力化を図り、参加率を向上させるために、会場参加はもちろん、ニューノーマル化にも対応し、オンライン、ハイブリッド開催、オンデマンド配信等含めて、大会等のあり方（目的・効果、企画・運営等）を工夫する。
- 3) 発表会・研修・フォーラム等（含む講演会など）に、広く、地域等を越えて参加いただけるよう、ICT やオンラインツールを活用した企画・運営を工夫する。

2. 仲間づくり

(1) 行政・経営層等への働きかけ

- 1) 地域の行政（公務）や教育機関、経営者協会等の経済団体、業界団体などに働きかけて、地域の特色を生かした発表会や行事、経営者・管理者向けフォーラム、コミュニティの開催などにより、QC サークル活動（小集団改善活動）が経営成果、人材育成などにつながることへの理解活動を展開し、QC サークル活動（小集団改善活動）の普及拡大・活発化へ向けて継続的な取り組みを行う。
- 2) 本部と分担あるいは連携して、企業・組織の本社機構、経済団体、業界団体などへの働きかけにより、普及拡大、活動への参加促進の取り組みを行う。

(2) JHS（医療・福祉含む）への働きかけ

サービス業務（事務・間接・医療・福祉など）を中心とした組織に適した、多様で新しいやり方を取り入れ、参加意欲を促進する具体的な方法・ツールを開発・提案して、普及拡大、活動促進に取り組む（内容に応じて、本部と連携）。

（注）事務・間接には、開発・設計、企画・営業業務を含み、サービス業務には、卸・小売業、運輸業、宿泊・飲食業、教育・研修等の業務も含む。

(3) 小規模企業への働きかけ

QCサークル本部にて展開（2015～17年）した「小規模企業へのQCサークル活動（小集団改善活動）の導入・支援活動」資料（運用ガイドほか参考情報を情報交換システム「活動企業・組織の拡大～仲間を増やす活動～」フォルダーに格納済み）を活用し、QCサークル本部と連携・協力して、支部・地区の指導・支援体制を強化し、小規模企業の参加、活動基盤の構築につながるような働きかけを行う。

(4) 幹事会社・会員会社の維持・拡大

広く（含む公務）、企業・組織の会員加入・活動への参加、幹事会社の引受などを促進するために、新たな企業・組織だけでなく、既に幹事会社、会員（含む他支部・地区）となっている企業・組織の本社・他事業所、グループ企業（関係会社）への働きかけを行う（必要に応じて本部・他支部と連携）。

3. 『QCサークル』誌の活用・PR

『QCサークル』誌が多くの企業・組織に必要とされ、活用されるよう、大会・研修会などで有用性を紹介するとともに、より一層効果的な活用方法を工夫し、広める。引き続き、2サークルで1冊購読をめざし、現場力（職場力）の更なる向上につなげる。

4. 時代の変化への対応

上記の主な取り組みの他、本部・支部は密接に連携・情報共有し、e-QCC提言、JHS-WG答申、「運営改革プロジェクト」答申等に沿って、新しい時代が求めるQCサークル活動（小集団改善活動）の実現に取り組む。

以上